



令和2年11月17日（火）午前9時から開催しました第3回の委員会では、新総合体育館整備に係るアンケート結果、整備候補エリアの選定、導入機能・規模、整備手法、現総合体育館の今後の扱いについて説明し、委員より意見を伺いました。



●候補エリアの選定について

選定指標により評価した上で、委員の意見を踏まえ総合的に判断した結果、当委員会では、Cエリアが候補エリアとして最も適しているとの結論になりました。以下に委員の主な意見を記載します。

- ✓ ICからもアクセスが良好で、国道21号には商業施設も多いため、Cエリアが適している。
- ✓ Cエリアは弓道場やサッカー場等も近く、スポーツ施設の集約ができる。
- ✓ 学生や高齢者の利用も考えると、公共交通機関が近い場所が良い。

＜候補エリア選定評価＞

評価視点	選定指標	配点	Aエリア (蘇原赤羽根町付近)	Bエリア (各務おがせ町付近)	Cエリア (各務山の 前町付近)	Dエリア (鵜沼真名越町付近)
拠点性	将来的な拡張余地の有無	5点	5点	5点	5点	5点
	近隣施設との相乗効果	5点	1点	1点	5点	1点
	商業施設との近接性	5点	5点	3点	5点	5点
交通利便性	鉄道駅からの距離	5点	1点	1点	5点	5点
	ICからのアクセス	5点	5点	1点	3点	3点
防災性	災害危険エリアとの離隔距離	5点	5点	1点	5点	1点
	緊急輸送道路との近接性	5点	3点	3点	3点	3点
	人口密集地との近接性	5点	3点	1点	3点	3点
経済性	アクセス道路の整備	5点	1点	3点	5点	5点
	建物等補償物件の有無	5点	5点	5点	3点	5点
合計点数（得点率）		50点	34点 (68%)	24点 (48%)	42点 (84%)	36点 (72%)

●新総合体育館の機能・規模（案）

アンケート結果を踏まえ、競技規則等の規定に適合した競技コートで、かつ現総合体育館で行える競技コート数を最低限確保した規模を想定しています。

分類	施設	想定床面積	概要
スポーツ系	メインアリーナ	約7,360㎡	小計 ○固定観客席：約570㎡（約1,140席） ○コート面積：約2,850㎡ ○固定観客席：約280㎡（約560席） ○コート面積：約1,400㎡ 現総合体育館のトレーニングルームの約4倍を想定 1.2m幅×2レーン。1周約250m。（メインアリーナを囲う客席の外周に設置を想定） 事例を参考に想定
	サブアリーナ	約1,680㎡	
	武道場等	約400㎡	
	トレーニング室	約850㎡	
	ランニングコース・ウォーキングコース	約630㎡	
	多目的室（複数の種目等に 対応可能なスペース）	約280㎡	
	キッズルーム	約100㎡	
非スポーツ系	会議室・研修室	約150㎡	事例を参考に想定 20人規模の会議室（50㎡）×3部屋。可動間仕切り。
	管理部	約1,210㎡	事例平均より総面積の10%程度と想定
共用部	器具庫、事務室、放送室（設備）、機械・設備室、防災備蓄倉庫、医務室等	約3,390㎡	事例平均より総面積の28%程度と想定
	トイレ、シャワー室、更衣室、ホール・ロビー、廊下、エレベーター、カフェ等		
総面積		約12,000㎡	

機能・規模に関する主な意見

- ✓ カフェについて、市民が集える場所があると良いが、公共施設内に整備されたカフェの撤退事例も多いため、導入するか否かは慎重に判断すべき。
- ✓ 災害対応として大きな施設やスペースがあると安心できる。
- ✓ バasketボールの大会では、メイン3面、サブ1面を使い、男女2面ずつで進行するケースが多いため、この規模で良い。
- ✓ この規模であれば、中学生のインドアテニスの大会で、一般的な9ペアの参加が可能となる（現状は5ペアのみ）。
- ✓ 今後、延床面積の異なる3パターンの新総合体育館プランを想定し、規模別に事例やコストを示して評価を実施する。

■お問い合わせ先

各務原市役所
教育委員会事務局 教育施設整備推進室
TEL：058-383-7302（直通）
FAX：058-389-0218
E-mail：kyseibi@city.kakamigahara.gifu.jp



委員会の様子やかわら版のバックナンバーについては、市ウェブサイト（左記QRコード）で掲載しています。また、委員会は公開していますので、傍聴を希望される方は会議の開始10分前までにお越しください。（※傍聴希望者が10名を超える場合は抽選）

